

学びの方策について

「学び合いを通じたひとづくり」

■生涯学習の意義や役割

教育基本法第3条

「国民一人一人が、自己の人格を磨き豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習でき、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図られなければならない。」

- 定年延長でより長く働くことが求められるなど、「**就労機会の拡大**」などの観点からも重要
- 急速なデジタル化の発展などライフステージに合わせた「**学習更新の役割が再認識**」
- 地域課題が複雑化する中、学びを通じた「**地域コミュニティの形成**」に寄与

生涯学習はまちづくりの根底に位置づく概念
「学び合い」の考え方は、引き続き、重要な視点

<学び合い>

「つながりや価値、可能性をつくること、行動すること」は、知ること、気づくこと、他を認めること、考えること、体験すること、他と共有することなどを通じて形づくられていくもの、そうした過程を「学び合い」と表現。

■生涯学習・学びとは

- 生涯学習とは、「一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内活動、趣味など様々な場や機会において行う学習」
- 「学び」というと勉強や資格取得などをイメージすることが多いが、日常の暮らしや人とのつながりの中で多くの学びをしており、仕事や遊びも含めた暮らしそのものに学びは溢れている。
- 「学び」のイメージを払拭しつつ、日々の学びを通して、自らの変化を他者とともに楽しむことが豊かな人生につながる。自分を棚卸し、自己理解を進めることで、柔軟に自分らしい生き方も選択できる。

いわば、生きていることそのものが「学び」



仕事



趣味

すべてが学び



暮らし



遊び



勉強

■これからの社会のあるべき姿

<人と人がつながり合う社会>

- あらゆる立場の方が多様な価値観を認め合い、つながりを育むことで、困りごとや課題が生じた場合は助け合い、楽しみは共に分かち合うことが可能
- 良好な関係性が築かれている場合は、個人の役割や能力が発揮されることが期待
- 人口減少社会は、つながり合うことの価値がこれまで以上に重要



<次世代をみんなで育てる社会>

- 高齢者を問題と見なすのではなく、次の世代へと受け渡していくため、大人が次の世代である子どもを主役へと育てることが重要
- 年齢や対象で切り分けるのではなく、高齢者も含めたすべての人々が、社会の能動的な主役の社会をつくり、生涯にわたって健康で活躍できる社会



<挑戦を支え失敗に寛容な社会>

- 変化が激しく複雑化する社会課題に対応していくためには、試行や実践を繰り返し、失敗を恐れず挑戦していく土壌と支える仕組みが必要
- 年齢問わず、挑戦し続け、大人が子どもの挑戦を支えていく視点



■これからの学びに必要な視点

①探究的かつ対話的な学び

⑥デジタル技術の活用

②世代間交流による学び

⑦アントレプレナーシップ教育

③学び直し(リカレント教育)

⑧地域コミュニティでの学びと実践

④学びの発信と行動

⑨社会的包摂・SDGs

⑤学びの可視化と自己経営

⑩NPO等パートナーシップ連携

人生100年時代の学びのあり方【基本的な考え方】 として整理した

- ・生涯学習の意義や役割
- ・生涯学習・学びとは
- ・これからの社会のあるべき姿
- ・これからの学びに必要な視点 等を踏まえ、

総合的かつ効果的に施策立案を行う必要がある

■あるべき姿

人と人がつながり合う社会

次世代をみんなで育む社会

挑戦を支え失敗に寛容な社会

■めざす姿

いつでもだれもがやりたいことに挑戦でき、
つながりのなかで、学び・活動・体験を通じて豊かさや幸せを実感できている

■学びの視点

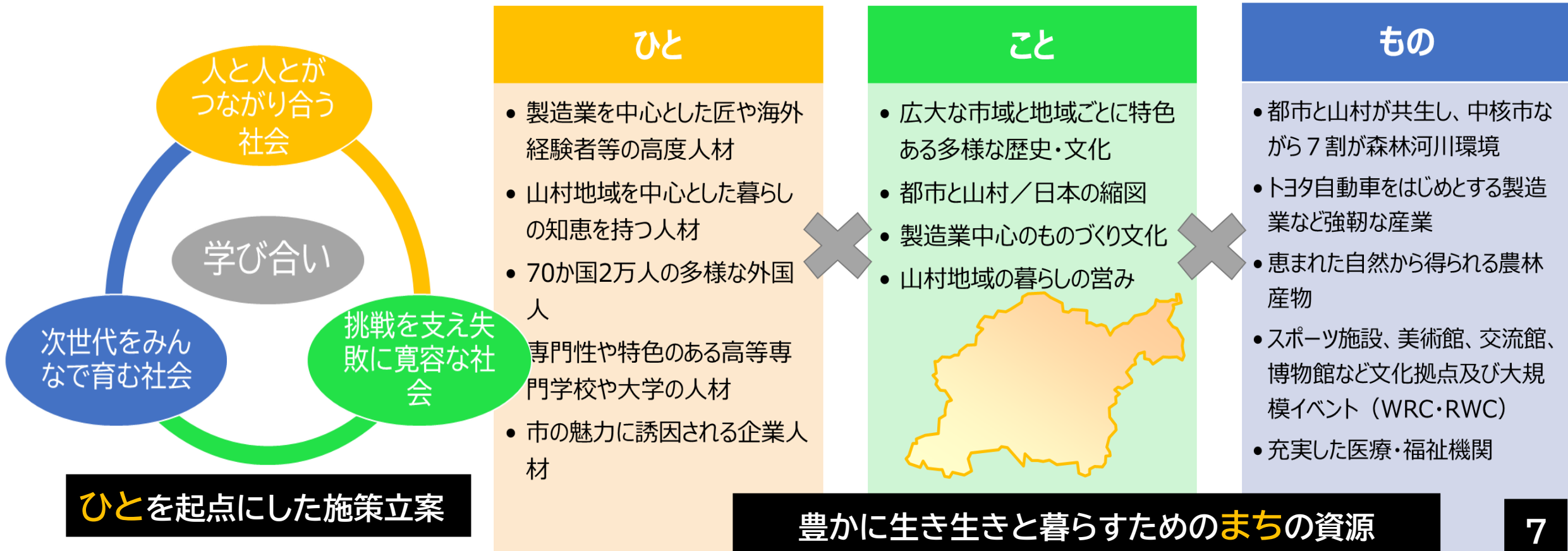
- ①探究的かつ対話的な学び
- ②世代間交流による学び
- ③学び直し(リカレント教育)
- ④学びの発信と行動
- ⑤学びの可視化と自己経営
- ⑥デジタル技術の活用
- ⑦アントレプレナーシップ教育
- ⑧地域コミュニティでの学びと実践
- ⑨社会的包摂・SDGs
- ⑩NPO等パートナーシップ連携

■施策

学び合いを通じたひとづくり

- ①学ぶ機会と場の充実
- ②学びを生かす機会と地域活性化
- ③未来を担うひとづくり
- ④大人の学びとライフキャリア

- これからの社会のあるべき姿「人と人がつながり合う社会」、「次世代をみんなで育む社会」、「挑戦を支え失敗に寛容な社会」を実現するため、学び合いを中心に置きつつ、**ひとを起点にした施策**に舵を切っていく必要がある。
- そのためには、**本市が持つ多様な資源(ひと・こと・もの)**を最大限に活用して、市民が互いに学び合える環境や支援を図っていくことで暮らしの充実を図る。



- ひとを起点にした施策「**学び合いを通じたひとづくり**」を進めるためには、**年齢やライフステージに応じた施策**を進める必要があります。
- また、多様な生き方が尊重され、DoよりもBe(何をするかよりどうありたいか)など従来の価値観から転換が求められるなか、**職業観よりも人生観の育成**が重要になります。
- そのためにも、**地域や大人が総がかりでこどもたちと関わっていく仕組みづくり**が重要であり、本市が進めるWELOVEとよたの取組、部活動の地域移行など体系的かつ横断的に推進することが必要です。

ひとの視点

小学生

- ・地域を知る
- ・ものづくり学習や文化・スポーツ活動を通じた体験

中学生

- ・地域活動を通じた郷土愛の醸成
- ・大人との出会いによる自己理解や自己肯定感の向上

高校生

- ・大人との出会いによる人生観の育成(生き方ものさし)
- ・好きなことややりたいことの探究

大学生

- ・地域社会の創り手としての実践活動

大人

- ・複線的なキャリア
- ・棚卸し・アンラーン
- ・知識・経験の伝承

「学び合いを通じたひとづくり」に関する 短期的な取組内容(案)

1. 学びの情報プラットフォームの構築

④ 学びの発信と行動

⑥ デジタル技術の活用

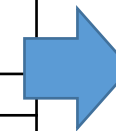
⑨ 社会的包摂・SDGs

⑩ NPO等パートナーシップ連携

背景

- 人生100年時代、誰も長生きする時代において、学校教育を前提としたキャリアが描きづらくなっているとともに、社会変化に適応していくためにいつのステージでも学び続けていくことが求められている。
- 交流館では、地域ごとに講座やイベントが開催されているが、各館ごとに情報発信されている。また、各所管課の講座やイベント情報についても情報が一元化されていない状況である。
- 学ぶことについて必要性を感じない方が一定いることから、学ぶ意義の楽しさについて情報発信する必要がある。

件名	大人の学びに関する市民の意識調査 ※「学び」とは、スポーツ、文化活動、ボランティア活動、趣味などを含む様々な場や機会
方法	Eモニター登録者196名(うち185名が回答)を対象に実施
期間	令和5年度7月4日(火)～7月13日(木)



学ぶ意欲のある方は8割
学ぶ意欲のない方は2割

学びを後押しするためには
きっかけづくりや
交流館講座の充実を希望

取組内容

対象	市民(講座やイベントは子ども向けのものも掲載するが、閲覧対象としては大人を想定)
内容	<ul style="list-style-type: none">● 人生100年時代における豊かな学びを広げていくために、学びに関する情報の集約をしつつ、必要性や楽しさを知ることができるWEBポータルサイトを設立する。● 講座・イベント情報の募集・応募ができるシステムを備えることで応募する参加者の幅を広げ、市民が学ぶ機会を増やす。 <p><内容案></p> <ol style="list-style-type: none">① 学びの必要性や楽しさなどの周知・啓発(コラム・インタビュー等)② 年齢やステージに応じた学びを後押しするもの③ 交流館及び市の講座・イベント情報の掲載

2. 中学生と大人の対話の場づくり

①探究的かつ対話的な学び

②世代間交流による学び

⑧地域コミュニティでの学びと実践

背景・課題

- 「WE LOVE とよた」の取組において、まちの魅力を次の世代(こどもたち)に継承していくことを推進しており、郷土愛を育むためには、地域の人と人との出会いやつながりが重要である。
- コロナ禍を契機に自治区の行事が減るなど地域のつながりがますます希薄化しており、地域内での顔見えるあるいは相談できるナナメの関係づくりを進める必要がある。
- 先行き不透明な時代において、こどもたちが多様な大人の生き方・仕事・思考に触れる機会をつくり、自己肯定感の醸成や進路の選択肢を必要がある。
- 交流館は、学び・交流・活動を通じた地域の拠点であり、地域人材のコーディネート機能を強化する必要がある。

事業内容

対 象	・市内中学校の生徒/3校をモデルに実施 ・地域の大人30名程度×3校	
内 容	・ 学校の総合的な探求の時間等を活用し、市内中学生と地域の大人が対話する場を創出する。	
	・ 地域の大人の選出は、交流館がコーディネートを行う。	
	こども	多様なロールモデルと出会い対話することで、人生観や職業観について考える機会となる。地域に魅力的な大人がいることに気付くことで、地域に愛着を持つことにつながっている。
	大 人	子どもとの対話を通して、自身のこれまでの生き方を棚卸し、学びほぐしし、今後の生き方を考える機会となっている。
交流館	交流館が持つ地域のネットワークや地域情報を活かし住民同士がつながり、認め合う関係性の構築を支援する拠点になっている。	



3. 高校生向けアントレプレナーシップ教育

背景・課題

- 先行きが不透明なVUCA時代を迎えており、社会課題や地域課題が複雑化している。また、本市で中心的に発展してきた自動車産業では、自動化や脱炭素化、電気自動車の台頭など、100年に一度の転換期を迎えている。
- このような転換期では、正解のない問いに対して、失敗を恐れず試行錯誤を繰り返し新たな価値を想像する力が必要。
- これは、市第4次教育行政計画のめざす人物像「夢に向かって挑戦し、未来を拓く人」、重点施策「自らの可能性を広げる力の育成」の推進に寄与するものである。
- また、本市がこれまで培ってきたものづくり学習の経験を生かしつつ、モビリティ社会に対応した学習プログラムを実施する必要がある。

取組内容

対 象 市内に在住及び通学する高校生30名程度(3名×10チーム)

- 内 容**
- 高校生を対象に、身近な課題を解決するアイデアコンテストを実施。
 - 基礎的な知識の習得、身近な課題の探究、チームでの課題解決策の立案を通して、アントレプレナーシップを身に着ける。また、伴走支援役のn起業家との出会いにより進路の選択肢拡充などキャリア教育の機会にもつなげる。
 - また、専門的な起業人材育成については、産業部門と連携し一体的な取組とする。

<プログラム案>

- ①起業に関する基礎知識:身近な困りごと,社会課題や市の課題など
- ②課題設定:興味のある領域の課題洗い出しや課題の選択
- ③情報収集:選択した課題の調査(課題の原因や現状など)
- ④アイデアの検討
- ⑤アイデアのブラッシュアップ・発表準備
- ⑥アイデアの発表・プレゼン

新たな価値を創造できる人材の育成



4. 大人(社会人)の学び場づくり

③学び直し(リカレント教育)

⑤学びの可視化と自己経営

背景・課題

- 人生100年時代、学校教育を前提としたキャリアが描きづらくなっており、変化の激しい社会に適応していくためにも学び続けていくことが求められている。定年延長なども踏まえ、ライフステージごとの複線型のキャリア形成や自己理解も含めた学び直しをすることの重要性が高まっている。
- 本市では、令和2年度国勢調査によると、65歳以上の市民は97,411人、100歳以上の市民は149人であり、今後とも超高齢化が続く見込みであり、人生100年生きる中における生き方のモデルを次の世代に示していく必要がある。
- 本市は、製造業を中心に安定した雇用形態の方が多いため、早い年齢から地域のつながりづくりなどの居場所確保が必要。

取組内容

対 象 20代～50代の大人(社会人)30名程度 ※そのうち、40代～50代のミドルシニア世代が主な対象

- 内 容**
- 人生100年時代を豊かに生きるため、定年後からではなく、社会人の早い段階から自身の生き方やありたい姿を立ち止まって考え、一歩踏み出すための大人の学び場を開催する。
 - 地域での活動、社会的な起業などの選択肢も考えることで、地域や様々な課題の担い手の解消も目的とする。
 - 市内の交流館や民間施設を拠点に学び合うコミュニティをつくる。

<主な講座の例>

- ①総論的な講義「人生100年時代の学び方・生き方」
- ②これまでの棚卸しワークショップ「自己理解・アンラーン」
- ③多様な生き方との出会い講義・対話
- ④市内の活動拠点ツアー
- ⑤これからの私ワークショップ「一歩踏み出すプラン」
- ⑥最終プレゼン

事例

まもづくりプラットフォーム | ぬましん COMPASS 実践プログラム

NUMAZU
セカンドキャリア
アクション講座
2023

受講生募集!
10月7日(土)
講座開講!

さあ、描こう 次の時代のキャリアプラン。

人生100年時代を生き抜くための学びのプラットフォーム。地域を豊かにするために、起業や副業、市民活動の今を学び、次の時代を描くためのキャリアプランをつくる準備講座、はじまります。

7月27日(木) 18:00-20:00

「今地域で求められる起業力とは? セカンドキャリアだからこそ、できること」

起業・副業・市民活動・NPO